

46	力	右半分を隠して、( )に合う語句を考えましょう。 正解したら○、間違えたら×をかきましょう。
	ちから おお たん い ニュートン つか 力の大きさの単位には N が使われ、 1Nは( )g の大きさに等しい。	ちから おお たん い ニュートン つか 力の大きさの単位には N が使われ、 1Nは( 100 )g の大きさに等しい。
	げつめんじょう じゅうりょく ちきゅうじょう やく 月面上の重力は地球上の約1/6なので、 ちきゅうじょう ぶつたい げつめんじょう 地球上で30Nの物体は、月面上で( )Nになる。	げつめんじょう じゅうりょく ちきゅうじょう やく 月面上の重力は地球上の約1/6なので、 ちきゅうじょう ぶつたい げつめんじょう 地球上で30Nの物体は、月面上で( 5 )Nになる。
	めん ぶつたい 面が物体におされたとき、その力に逆らって、 めん ぶつたい かえ ちから 面が物体をおし返す力を( )という。	めん ぶつたい 面が物体におされたとき、その力に逆らって、 めん ぶつたい かえ ちから 面が物体をおし返す力を( 垂直抗力 )という。
	ちから へんけい ぶつたい 力によって変形させられた物体が、 ちから もとにもどろうとする力を( )という。	ちから へんけい ぶつたい 力によって変形させられた物体が、 ちから だんせいりょく もとにもどろうとする力を( 弾性力 )という。
	ぶつたい めん せつ うんどう 物体が面と接しながら運動するとき、 めん うんどう ちから 面が運動をさまたげる力を( )という。	ぶつたい めん せつ うんどう 物体が面と接しながら運動するとき、 めん うんどう ちから 面が運動をさまたげる力を( 摩擦力 )という。
	じしゃく ちか はんぱつ 磁石を近づけたとき、反発したり、 ひ あ ちから 引き合ったりする力を( )という。	じしゃく ちか はんぱつ 磁石を近づけたとき、反発したり、 ひ あ ちから 引き合ったりする力を( 磁力 )という。
	ばねののびが、ばねを引く力に( )することを、 ( )の法則という。	ばねののびが、ばねを引く力に( 比例 )することを、 ( フック )の法則という。
	0.2Nで0.8cmのびるばねは、 1.2Nで( )cmのびる。	0.2Nで0.8cmのびるばねは、 1.2Nで( 4.8 )cmのびる。
	ちから あらわ ばあい てん や じるし してん 力を表す場合、( )点を矢印の始点として、 む や じるし む おお や じるし なが あらわ 向きを矢印の向き、大きさを矢印の長さで表す。	ちから あらわ ばあい さよう てん や じるし してん 力を表す場合、( 作用 )点を矢印の始点として、 む や じるし む おお や じるし なが あらわ 向きを矢印の向き、大きさを矢印の長さで表す。
	じゅうりょく あらわ ばあい ぶつたい ちゅうしん てん 重力を表す場合、物体の中心を( )点とし、 や じるし む あらわ 矢印を( )向きに表す。	じゅうりょく あらわ ばあい ぶつたい ちゅうしん さよう てん 重力を表す場合、物体の中心を( 作用 )点とし、 や じるし した む あらわ 矢印を( 下 )向きに表す。
	あつりょく たん い つか 圧力の単位には( )が使われ、 N÷面積[m <sup>2</sup> ]で求める。	あつりょく たん い パスカール つか 圧力の単位には( Pa )が使われ、 N÷面積[m <sup>2</sup> ]で求める。
	しつりょう ていめんせき ちよくほうたい 質量が6000gで、底面積が10m <sup>2</sup> の直方体が すいへいめん あつりょく 水平面におよぼす圧力は、( )Paになる。	しつりょう ていめんせき ちよくほうたい 質量が6000gで、底面積が10m <sup>2</sup> の直方体が すいへいめん あつりょく 水平面におよぼす圧力は、( 6 )Paになる。
	すいちゅう みず う あつりょく 水中で、水から受ける圧力を( )といい、 ふか 深くなるほど( )なる。	すいちゅう みず う あつりょく 水中で、水から受ける圧力を( 水圧 )といい、 ふか 深くなるほど( おおきく )なる。
	すいあつ 水圧は、 ( )方向からはたらく。	すいあつ 水圧は、 ( あらゆる )方向からはたらく。
	ぶつたい すいちゅう うわむ う ちから ふりょく 物体が水中で上向きに受ける力を浮力といい、 すいちゅう たいせき ま 水中の体積が増すほど( )なる。	ぶつたい すいちゅう うわむ う ちから ふりょく 物体が水中で上向きに受ける力を浮力といい、 すいちゅう たいせき ま 水中の体積が増すほど( おおきく )なる。
	ぶつたい すいちゅう 1.2Nの物体が水中で0.9Nになるとき、 この物体にかかる浮力は( )Nである。	ぶつたい すいちゅう 1.2Nの物体が水中で0.9Nになるとき、 この物体にかかる浮力は( 0.3 )Nである。
	ぶつたい じゅうりょく ふりょく ひと 物体にはたらく重力と浮力が等しいとき、 ぶつたい みず 物体は水に( )。	ぶつたい じゅうりょく ふりょく ひと 物体にはたらく重力と浮力が等しいとき、 ぶつたい みず 物体は水に( うかぶ )。
	ぶつたい じゅうりょく ふりょく 物体にはたらく重力が浮力より( )とき、 ぶつたい すいちゅう 物体は水中にしずむ。	ぶつたい じゅうりょく ふりょく おお 物体にはたらく重力が浮力より( おおきい )とき、 ぶつたい すいちゅう 物体は水中にしずむ。
	じょうくう かいめん くうき じゅうりょく たいきあつ 上空から海面までの空気の重力を大気圧といい、 ひょうこう たか 標高が高くなるほど( )くなる。	じょうくう かいめん くうき じゅうりょく たいきあつ 上空から海面までの空気の重力を大気圧といい、 ひょうこう たか 標高が高くなるほど( 小さ )くなる。
	かいめんじょう たいきあつ やく 海面の大気圧は約( )Paで、 やく ヘクトパスカル あらわ これは約( )hPaと表すことができる。	かいめんじょう たいきあつ やく 海面の大気圧は約( 100000 )Paで、 やく ヘクトパスカル あらわ これは約( 1000 )hPaと表すことができる。

# 49 化学変化

右半分を隠して、( )に合う語句を考えましょう。  
正解したら○、間違えたら×をかきましょう。

1種類の物質が、2種類以上の物質に分かれる変化を( )という。

1種類の物質が、2種類以上の物質に分かれる変化を( **分解** )という。

物質が別の物質に変わる変化を( )変化、または( )反応という。

物質が別の物質に変わる変化を( **化学** )変化、または( **化学** )反応という。

炭酸水素ナトリウムを熱すると、( )、( )、( )に分解される。

炭酸水素ナトリウムを熱すると、( **二酸化炭素** )、( **水** )、( **炭酸ナトリウム** )に分解される。

酸化銀を熱すると、( )と( )に分解される。

酸化銀を熱すると、( **酸素** )と( **銀** )に分解される。

物質に電流を流して分解することを( )という。

物質に電流を流して分解することを( **電気分解** )という。

水に電流を流すと、陰極には( )、陽極には( )が発生する。

水に電流を流すと、陰極には( **水素** )、陽極には( **酸素** )が発生する。

物質をつくる最小の単位を原子といい、いくつかの原子が結びついたものを( )という。

物質をつくる最小の単位を原子といい、いくつかの原子が結びついたものを( **分子** )という。

物質を原子記号で表したものを( )という。

物質を原子の記号で表したものを( **化学式** )という。

原子記号で、水素は( )、炭素は( )、窒素は( )、酸素は( )、硫黄は( )、塩素は( )のように表す。

原子の記号で、水素は( **H** )、炭素は( **C** )、窒素は( **N** )、酸素は( **O** )、硫黄は( **S** )、塩素は( **Cl** )のように表す。

原子記号で、ナトリウムは( )、鉄は( )、銅は( )、亜鉛は( )、銀は( )のように表す。

原子の記号で、ナトリウムは( **Na** )、鉄は( **Fe** )、銅は( **Cu** )、亜鉛は( **Zn** )、銀は( **Ag** )のように表す。

2種類以上の物質が結びつく化学変化を( )、それによってできた物質を( )という。

2種類以上の物質が結びつく化学変化を( **化合** )、それによってできた物質を( **化合物** )という。

化学式を組み合わせて化学変化を表した式を( )という。

化学式を組み合わせて化学変化を表した式を( **化学反応式** )という。

鉄と硫黄の混合物を熱すると、( )ができる。

鉄と硫黄の混合物を熱すると、( **硫化鉄** )ができる。

鉄と硫黄の化合は、化学反応式で、( )+( )→( )と表す。

鉄と硫黄の化合は、化学反応式で、( **Fe** )+( **S** )→( **FeS** )と表す。

熱した銅版を硫黄の蒸気の中に入れると、( )ができる。

熱した銅版を硫黄の蒸気の中に入れると、( **硫化銅** )ができる。

銅と硫黄の化合は、化学反応式で、( )+( )→( )と表す。

銅と硫黄の化合は、化学反応式で、( **Cu** )+( **S** )→( **CuS** )と表す。

炭素を空気中で燃やすと、( )ができる。

炭素を空気中で燃やすと、( **二酸化炭素** )ができる。

炭素と酸素の化合は、化学反応式で、( )+( )→( )と表す。

炭素と酸素の化合は、化学反応式で、( **C** )+( **O<sub>2</sub>** )→( **CO<sub>2</sub>** )と表す。

水素と酸素の混合気体に火をつけると、( )ができる。

水素と酸素の混合気体に火をつけると、( **水** )ができる。

水素と酸素の化合は、化学反応式で、( )+( )→( )と表す。

水素と酸素の化合は、化学反応式で、( **2H<sub>2</sub>** )+( **O<sub>2</sub>** )→( **2H<sub>2</sub>O** )と表す。

右半分を隠して、( )に合う語句を考えましょう。  
正解したら○、間違えたら×をかきましょう。

大気中で起こるさまざまな現象を  
( )という。

大気中で起こるさまざまな現象を  
( **気象** )という。

天気は、空全体を10としたときの雲の割合で決まり、  
0~1は( )、2~8は晴れ、9~10は( )である。

天気は、空全体を10としたときの雲の割合で決まり、  
0~1は( **快晴** )、2~8は晴れ、9~10は( **くもり** )である。

気圧は、( )気圧計を用いて測定し、  
1気圧は約( )hPaである。

気圧は、( **アネロイド** )気圧計を用いて測定し、  
1気圧は約( **1013** )hPaである。

風力は、( )段階に分かれていて、  
天気図記号では、風力を矢ばねの数で表す。

風力は、( **13** )段階に分かれていて、  
天気図記号では、風力を矢ばねの数で表す。

風向は( )方位で表し、北西の風の場合、  
風が( )からふいていることを意味する。

風向は( **16** )方位で表し、北西の風の場合、  
風が( **北西** )からふいていることを意味する。

風で旗が北東になびいているとき、  
風向は( )と表す。

風で旗が北東になびいているとき、  
風向は( **南西** )と表す。

気温は、地上から( )mの高さで測定し、  
( )を球部に当てないようにしてはかる。

気温は、地上から( **1.5** )mの高さで測定し、  
( **直射日光** )を球部に当てないようにしてはかる。

湿度は、( )を用いて測定し、  
湿度表で、乾球の温度と乾湿球の差を読みとる。

湿度は、( **乾湿計** )を用いて測定し、  
湿度表で、乾球の温度と乾湿球の差を読みとる。

晴れの日は、気温が( )く、  
湿度が( )く、気圧が( )くなる。

晴れの日は、気温が( **たか** )く、  
湿度が( **ひく** )く、気圧が( **たか** )くなる。

雨の日は、気温が( )く、  
湿度が( )く、気圧が( )くなる。

雨の日は、気温が( **ひく** )く、  
湿度が( **たか** )く、気圧が( **ひく** )くなる。

1m<sup>3</sup>の空気中に含まれる水蒸気の最大質量を  
( )といい、気温が高いと大きくなる。

1m<sup>3</sup>の空気中に含まれる水蒸気の最大質量を  
( **飽和水蒸気量** )といい、気温が高いと大きくなる。

水蒸気が水滴に変わることを( )といい、  
水滴に変わり始める温度を( )という。

水蒸気が水滴に変わることを( **凝結** )といい、  
水滴に変わり始める温度を( **露点** )という。

湿度の求め方は、  
( )÷( )×100である。

湿度の求め方は、  
( **水蒸気量** )÷( **飽和水蒸気量** )×100である。

飽和水蒸気量が14.5g、水蒸気量が8.7gのとき、  
湿度は( )%になる。

飽和水蒸気量が14.5g、水蒸気量が8.7gのとき、  
湿度は( **60** )%になる。

水蒸気量の求め方は、  
( )×( )÷100である。

水蒸気量の求め方は、  
( **飽和水蒸気量** )×( **湿度** )÷100である。

飽和水蒸気量が20.6g、湿度が80%のとき、  
水蒸気量は( )gになる。

飽和水蒸気量が20.6g、湿度が80%のとき、  
水蒸気量は( **16.48** )gになる。

空気中の水蒸気が水滴や水の結晶に変化し、  
それらが集まってできたものが( )である。

空気中の水蒸気が水滴や水の結晶に変化し、  
それらが集まってできたものが( **雲** )である。

空気中の水蒸気が水滴に変わり、  
空気中に浮かんでいるものが( )である。

空気中の水蒸気が水滴に変わり、  
空気中に浮かんでいるものが( **霧** )である。

気圧の等しい地点を曲線でつないだものを  
( )といい、( )hPaごとに引いてある。

気圧の等しい地点を曲線でつないだものを  
( **等圧線** )といい、( **4** )hPaごとに引いてある。

高気圧の中心部では( )気流が生じ、  
低気圧の中心部では( )気流が生じる。

高気圧の中心部では( **下降** )気流が生じ、  
低気圧の中心部では( **上昇** )気流が生じる。

右半分を隠して、( )に合う語句を考えましょう。  
正解したら○、間違えたら×をかきましょう。

( )生殖で生殖細胞がつくられるとき、  
親の染色体が( )し、半分ずつに分かれる。

(有性)生殖で生殖細胞がつくられるとき、  
親の染色体が(減数分裂)し、半分ずつに分かれる。

( )生殖では、  
子の形質は両方の親の( )で決まる。

(有性)生殖では、  
子の形質は両方の親の(遺伝子)で決まる。

( )生殖では、  
子の形質は親と( )になる。

(無性)生殖では、  
子の形質は親と(同じ)になる。

起源が同じで、同一の遺伝子をもつ個体の集団を  
( )という。

起源が同じで、同一の遺伝子をもつ個体の集団を  
(クローン)という。

親の形質が子や孫に伝わることを  
( )という。

親の形質が子や孫に伝わることを  
(遺伝)という。

( )は、エンドウの交配実験を行い、  
親の形質が子や孫に伝わる規則性を調べた。

(メンデル)は、エンドウの交配実験を行い、  
親の形質が子や孫に伝わる規則性を調べた。

同じ固体のめしべに花粉が受粉することを、  
( )受粉という。

同じ固体のめしべに花粉が受粉することを、  
(自家)受粉という。

何度受粉をくり返しても、  
いつも親と同じ形質になる系統を( )という。

何度受粉をくり返しても、  
いつも親と同じ形質になる系統を(純系)という。

形質が対をなしていることを( )といひ、  
自家受粉すると、どちらか一方の形質が現れる。

形質が対をなしていることを(対立形質)といひ、  
自家受粉すると、どちらか一方の形質が現れる。

減数分裂のときに、対になっている遺伝子が別々の  
生殖細胞に入ることを、( )の法則という。

減数分裂のときに、対になっている遺伝子が別々の  
生殖細胞に入ることを、(分離)の法則という。

対立形質のそれぞれの純系どうしを交配したとき、  
子に現れる形質を( )形質という。

対立形質のそれぞれの純系どうしを交配したとき、  
子に現れる形質を(優性)形質という。

対立形質のそれぞれの純系どうしを交配したとき、  
子に現れない形質を( )形質という。

対立形質のそれぞれの純系どうしを交配したとき、  
子に現れない形質を(劣性)形質という。

優性の遺伝子をA、劣性の遺伝子をaとすると、  
優性で純系の遺伝子の組み合わせは( )と表す。

優性の遺伝子をA、劣性の遺伝子をaとすると、  
優性で純系の遺伝子の組み合わせは(AA)と表す。

AAとaaの子に優性の形質が現れる割合は、  
( )%である。

AAとaaの子に優性の形質が現れる割合は、  
(100)%である。

AaとAaの子に優性の形質が現れる割合は、  
( )%である。

AaとAaの子に優性の形質が現れる割合は、  
(75)%である。

Aaとaaの子に優性の形質が現れる割合は、  
( )%である。

Aaとaaの子に優性の形質が現れる割合は、  
(50)%である。

染色体にある、遺伝子の本体を( )、  
または( )核酸という。

染色体にある、遺伝子の本体を(DNA)、  
または(デオキシリボ)核酸という。

遺伝子の本体は( )本のひも状の物質が  
( )状になってできている。

遺伝子の本体は(2)本のひも状の物質が  
(らせん)状になってできている。

( )組換えによって、  
農産物の品種改良にかかる期間が短くなった。

(遺伝子)組換えによって、  
農産物の品種改良にかかる期間が短くなった。

遺伝子の異常によって、親とまったくちがう子が  
できることを( )という。

遺伝子の異常によって、親とまったくちがう子が  
できることを(突然変異)という。

